老朽原発うごかすな！ニュース

第１０８号

発行・老朽原発うごかすな！実行委員会

［連絡先］
090-1965-7102

９月１日「一食断食」行動報告（１）「一食断食」しました

関西電力本店に向け２００人が

「一食断食」って意外ときついものですね。普段、寝坊して朝ご飯を食べることができなかった、とか仕事が忙しくて夕方昼食を食べていないことに気づいた、とかはまれにある。しかし食事に自分の主張を込めて、意識的に断食するその理由が「老朽原発を止めてくれ」とか、原発政策に抗議するとか、不条理に抗議する怒りの理由だったら、なおさらひもじくてしかたないんだなと感じた。

とにかくおかしなことが多すぎる。例えば８月２４日に強行された「アルプス処理水」の海洋放出。直接高度に汚染された放射性物質に触れた水を、「ここまでの濃度なら安全」として流すことがおかしい。さらに流す理由「流さないと復興の妨げになる」というのも「はあ？」という感じで意味不明。加えてそれに抗議したら「非国民」と言わんばかりに「政府が安全と発表していることをお前らが批判するからから風評被害が起こる」と頭ごなしにバッシングされる。どうしたらいい？議会は原発推進派が圧倒的多数だ。マスコミも批判してくれない。身をもってそれを主張するには、自分の身を犠牲にして「一食断食」して抗議の意思を伝えるしかないか、などと「一食断食」する理由を考えながら、関西電力前で座っていた。

おなかがすくとあまりフレンドリーに話をしたり、冗談のひとつでも言おうという気持ちが減ってしまうのか、なんとなく不機嫌な自分に気づく。僕の主観だけど、なんかみんな少し無口でイライラしているような気がした。やっぱりご飯は大事だと思った。

悪政が止まらない。「個人としての人の尊厳」をないがしろにする決定ばかりだ。大軍拡しかり、原発の利用しかり、万博やＩＲもしかり、アメリカと財界と政界で一度合意したことは国民が反対していいようと、そのために誰かが犠牲になろうと止まらない。

もう断食しないでいいように断食。世代を超えて、街頭署名活動や対話活動で働きかけなどで、多くの人とつながる活動をしっかりと行っていきたいと思った

（原発ゼロの会・大阪　庄司　修）

９月１日「一食断食」行動報告（２）李元栄さんの、日本の市民に向けた訴えを紹介した

道路に向け「一食断食」の訴え

９月１日大阪の関電本店前での「一食断食行動」に参加した。１０時から突入集会、昼休集会、集約集会と３０分ずつの集会の合間は参加者からのアピールや歌、楽器演奏などでつなぐということだったが、実質１６時まで集会は続き、各地の市民グループからの活動報告や訴えだけでなく、個人の自発的発言、『はんげんぱつ新聞』などの専門的な報告と質疑応答、福島の避難者の詩の紹介などと、多彩で自由闊達な意見交流や発表と学習の場になっていた。

トリチウム除去の可能性に

いろいろな横断幕が訴える

ついて、木原壮林さんは「除去はできない。」と断言されて驚いた。可否の議論でなく原発は廃止しかないことこそが大事と強調されたのだった。ずっと耳を傾けていたわけではない。日陰を求めてあちこち移動したり、午後から参加した友人に生協活動の話を聞いたり、区切りごとのシュプレヒコールで声を上げたり（ビルで働く社員の耳に届いただろうか）、気がつけば集約集会の時間だった。歩道に生まれた自由な空間への参加者の累計は約２００名とか。

韓国から汚染水流すなと徒歩行進を続けておられる李元栄（イ・ウォニョン）氏の、行動しようとしない日本の市民に向けた厳しい訴えを是非紹介したかった。幸い時間をもらえて、役に立てたのがうれしかった。

集会の最後で中嶌哲演さんが、１９７７年に初めて議事堂前で１週間の断食をしたときは３５才だったと語られた。原発に反対する闘いの先頭に立ち続けてこられた哲演さんの袈裟と笠姿に、頭が下がるばかりだった。

２０代の若者の参加は希望に繋がる。どうか自分たちの未来の問題として考え行動してほしい。世代のギャップが言われるけれど、核や戦争の廃絶を求める気持ちに違いはない。こんな場が増え、参加者同士の対話と交流が広がれば、力を合わせられるのではないか。

天にも届く関電本店ビルは原発社会の象徴のようだ。私はちがった未来を想像したい。

（大津市　島元恵子）

９月１日「一食断食」行動報告（３）
関電前・断食行動に参加して

９月１日（金）１０時から１６時にかけて、関電本店前「一食断食」（昼食抜きのハンガーストライキ）行動を、「老朽原発うごかすな！実行委員会」主催の下、２００名の参加者で、１人の脱落者もなく、最後まで貫徹いたしました。全国各地から連帯と応援のメッセージを頂戴し、何よりも私達の励ましとなりました。

日本政府、東電、関電を中心とした《原子力ムラ》の直近政策である「原発推進」「原発依存」「原発回帰」は、日本の将来に禍根を残すものであり、私達は絶対に許す事が出来ません。

特に、４０年超えの老朽原発、美浜３号、高浜１号、高浜２号を再稼働させる関電は、中国電力を巻き込み、山口県上関町に、中間貯蔵施設を創ろうと、画策しています。

当日９月１日は、関東大震災１００年目にあたり、時の政権（内務省通達）が関与し、日本の自警団、警察、軍隊によって虐殺された朝鮮の人々への鎮魂を込めて、参加者全員で１分間黙祷を行いました。

さらに、日本政府、東電が、漁民との正式な公約を破り、一方的に、福島第１原発「ＡＬＰＳ処理汚染水」の海洋放出を独断強行した事に、世界各地から怒りと抗議の声があがっています。

韓国ソウルから東京国会まで１６００キロを踏破せんとする李元栄（イ・ウォニョン）さんへの連帯、応援含め、国、東電の汚染水問題が、私達集会の議論の中心テーマとなりました。

中嶌哲演さんは、「トリチウムは細胞のＤＮＡに変異を起こし異常を生じさせる」というトリチウムの危険性を。木原壮林さんは、「トリチウムは水分子の一部として存在するため多核種除去設備（ＡＬＰＳ）での除去は不可能」と解説されました。

「国、東電の汚染水の海洋放出は、『人類への緩慢な殺人行為』」（著書被曝インフォデミック２０２１年発行）は、内部被曝の権威、北海道ガンセンター名誉院長、西尾正道さんの警句です。

最後に、集会の決意表明、シュプレヒコール、今後の行動日程が説明されました。

（八幡市　三崎健二）

関電本店に向け、シュプレヒコール